

新規事業評価調書

【河川事業】

二級河川 武庫川

(中流部 武田尾温泉地区)

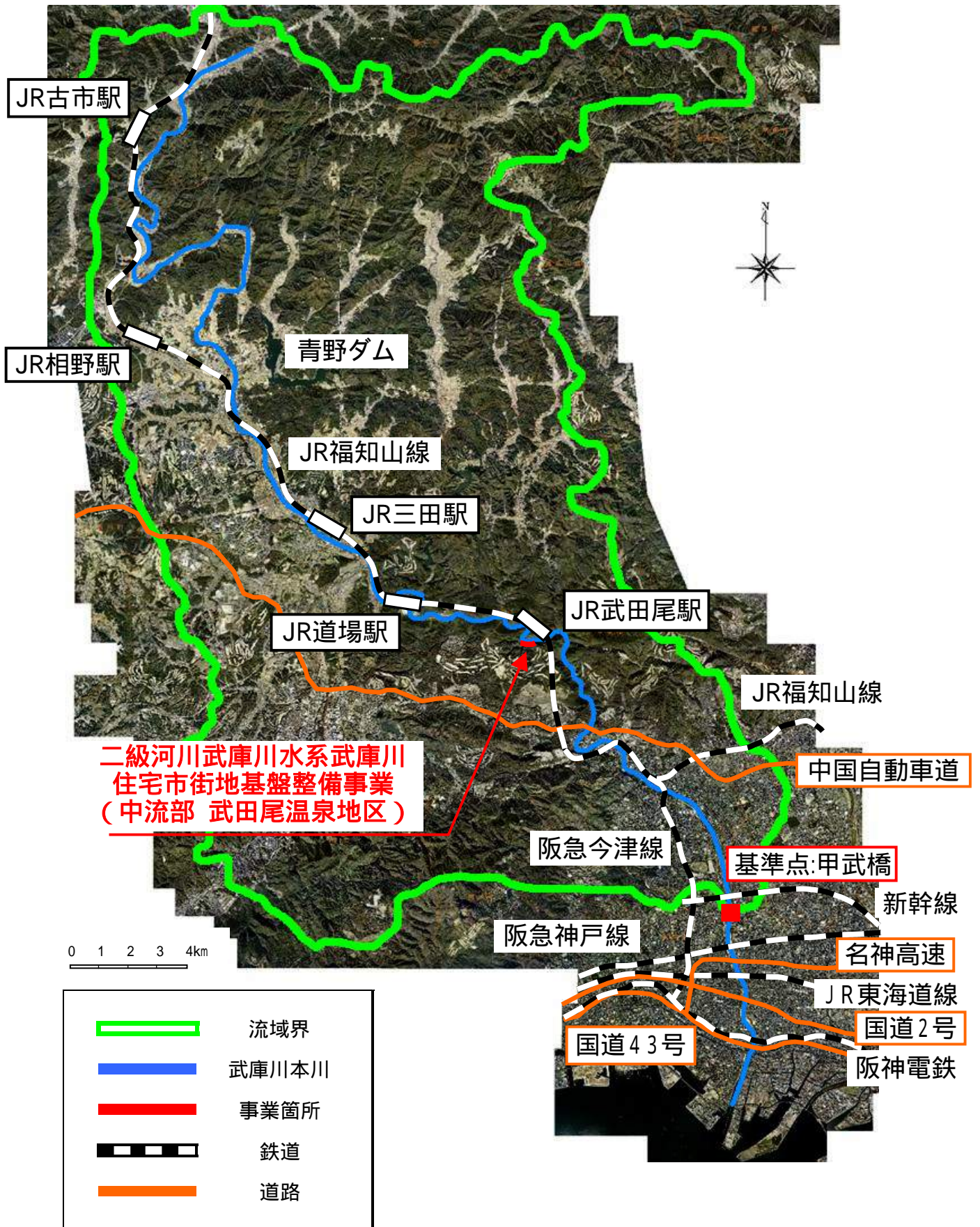
県土整備部

土木局 武庫川総合治水室

投資事業評価調書（新規）

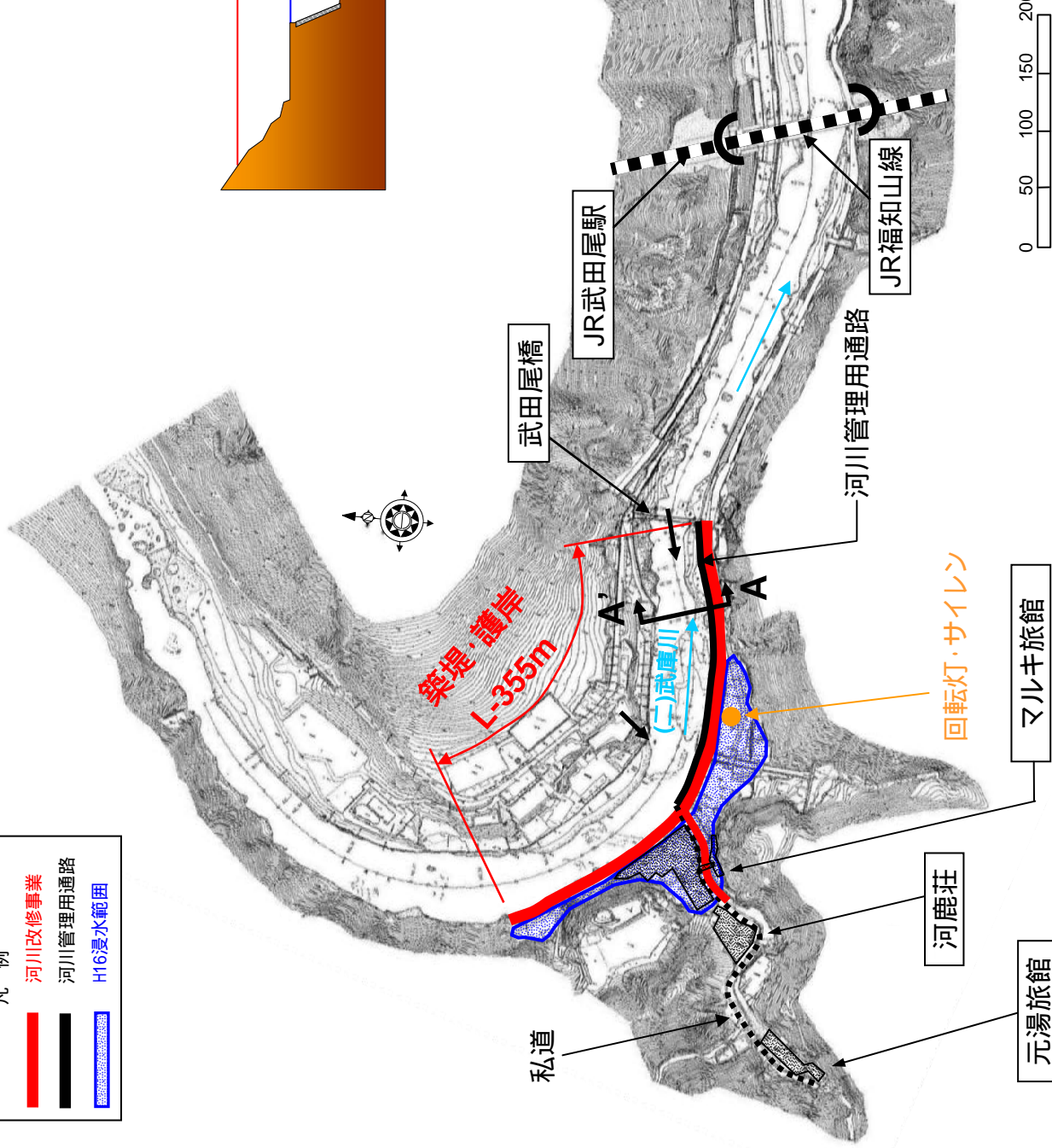
部課室名	県土整備部土木局 武庫川総合治水室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	武庫川総合治水室長 高谷 和彦 (課長補佐兼武庫川企画係長 當舎 良章)	内線	4441 (4424)
事業種目	河川 事業	事業名	事業区間	総事業費	8.0 億円
		二級河川 武庫川水系 武庫川 住宅市街地基礎盤整備事業 〔武田尾温泉地区〕	西宮市塩瀬町名塩	内用地 補償費	6.0 億円
所在地			着手年度(予定)	完成年度(予定)	
西宮市塩瀬町名塩			平成 26 年度	平成 29 年度	
事業目的			事業内容		
<p>武庫川の中流部に位置する武田尾温泉地区は、複数の温泉旅館があり、関西の奥座敷として知られている。当該箇所は、昭和 58 年、平成 11 年、平成 16 年に床上浸水が発生したほか、昭和 58 年、平成 16 年には武田尾橋が流失し、観光産業にも大きな損失を与えた。</p> <p>このため、戦後最大洪水(昭和 36 年 6 月洪水)と同規模の計画流量 2,600m³/s を目標として改修を行い、地域の治水安全度向上を図る。 (本事業は、総合治水条例に基づき、平成 25 年 3 月に策定した「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画」に位置付けられている。)</p>			<p>計画目標 戦後最大洪水(S36.6)への対応 計画流量 2,600m³/s (基準点:武田尾) 整備延長 355m 河道掘削 約 24,000m³ 護岸改修 約 5,000 m² 〔負担割合 国:1/2、県:1/2〕</p> <p>【関連事業】 ・武庫川住宅市街地基礎盤整備事業 継続 (下流部掘削・築堤区間、新規遊水地) ・武庫川上流工区広域河川改修事業 継続 ・武庫川総合流域防災事業(堤防強化) 継続 ・武庫川流域貯留浸透事業 継続</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>当該箇所は、計画流量(2,600m³/s)に対して現況流下能力(840m³/s)が3割程度しかなく、治水安全度が低い。</p> <p>H16.10洪水以降、水位状況に応じて回転灯やサイレンにより危険情報を周知しているが、過去に床上浸水が頻発していることから、早急に河川改修を実施して地域の治水安全度を向上させる必要がある。</p> <p>旅館へのアクセスは河川管理用通路のみであり、特に流下能力の低い武田尾橋直上流部付近においては、当該通路が冠水(H16,18,21)するため、洪水時には旅館(3軒)が孤立する。このため、当該通路の浸水を防止し、外部とのアクセスを確保する必要がある。</p>				
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	<p>費用便益比 B/C = 13.9 (対象:河川整備計画で実施予定の事業のうち、本川・支川整備にかかるすべての事業)</p> <p>本事業を実施することにより、戦後最大洪水(S36.6)と同規模の洪水が発生しても、旅館やアクセス通路の浸水が防止され、浸水被害や孤立旅館を解消することができる。</p> <p>河川改修による地域の治水安全度の向上は、阪神間に残る貴重な観光資源の保全にも寄与する。</p> <p>浸水被害が頻発しており、本事業に対する旅館や西宮市からの要望が高い。事業区間内の境界確認が終了しており、事業執行環境が整っている。</p>				
(3)環境適合性	<p>当該地域付近には貴重種(サツキ・アオヤギバナ等)が生息していることから、計画段階から専門家の意見を聴くとともに、多自然型ブロックを採用するなど自然環境に配慮しながら整備を行う。</p> <p>本事業は、河床掘削を伴わないことから、現況の瀬や淵、みお筋などの保全が可能であり、自然環境への影響は小さい。</p>				
(4)優先性	<p>当該箇所は流域内でも特に治水安全度が低く、浸水被害が頻発していることから、本事業の優先性は高い。これまでも地元との合意形成に努めてきたが、未了であった境界確認の同意を得られたことから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>当該地域の治水安全度の向上は、阪神地域に残る貴重な観光資源の保全にも寄与することから、優先性は高い。</p>				

流域平面図

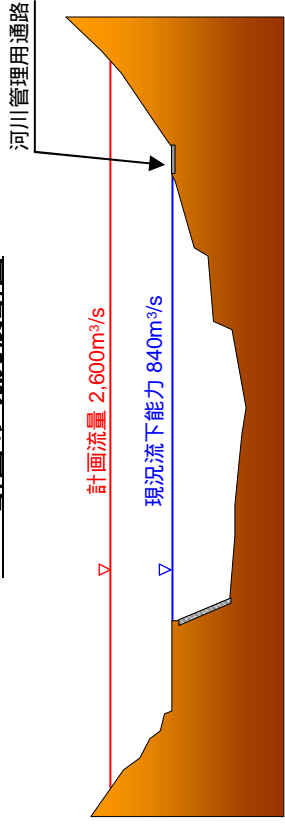


河川改修の概要【平面図】

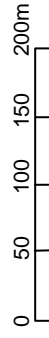
- 凡例
- 河川改修事業
 - 河川管理用通路
 - H16浸水範囲



A-A'断面の現況横断面



平成21年5月洪水
(集中豪雨、A-A'断面付近)

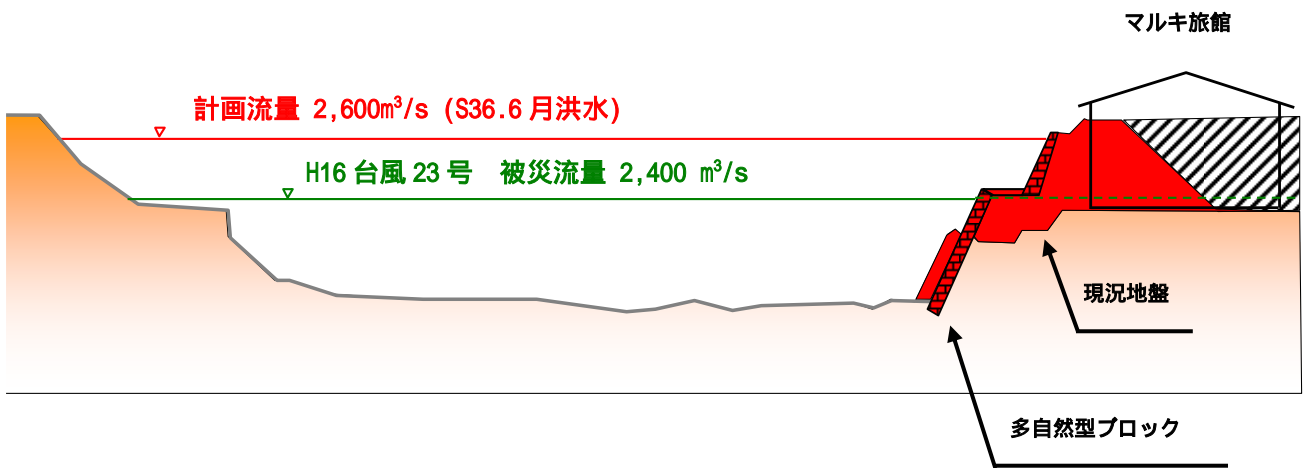


河川改修の概要【現況写真・横断図】

現況写真



整備横断イメージ



【流量配分図】





写真

H16年被災状況



写真

1. 実施工程表

	H26	H27	H28	H29
調査設計				
用地取得 物件補償				
護岸 河川管理用通路				

2. 事業効果について

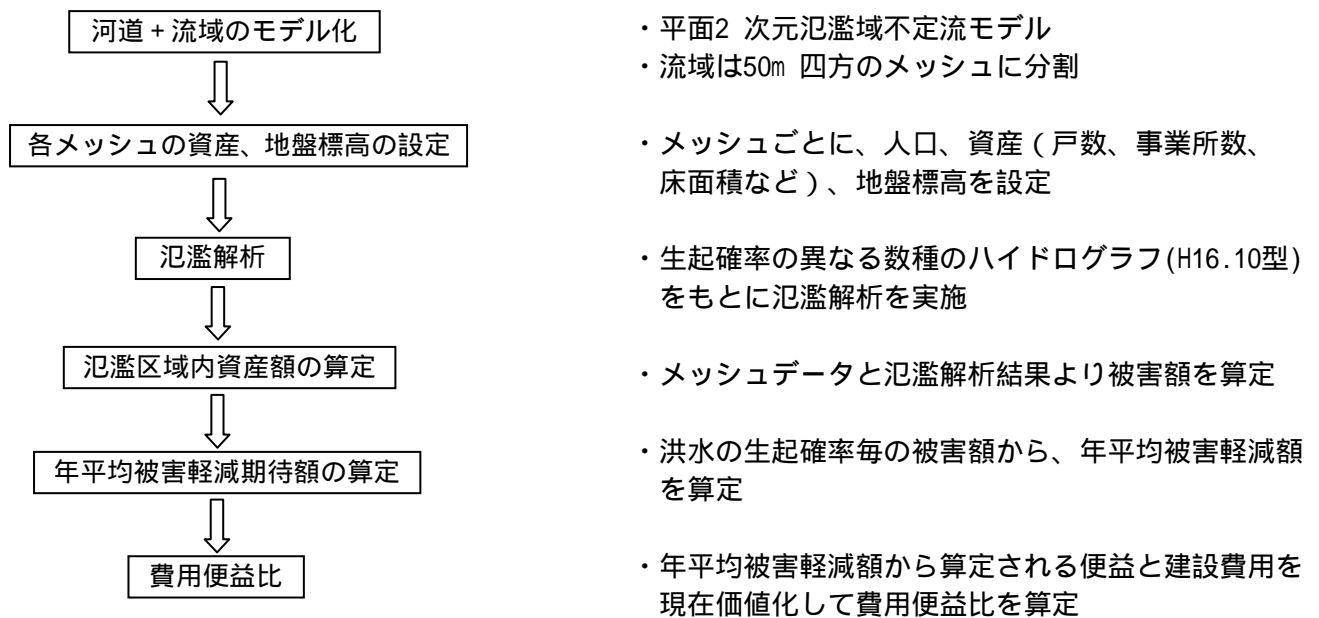
(1) 費用対効果

便益 (B) の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等) + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

治水経済調査マニュアル (案) 国土交通省河川局 平成17 年4 月



費用便益費 (B / C) の算出根拠

便益 (B)		費用 (C)			B / C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
442,721	戦後最大規模の洪水に対し ・ 浸水戸数 47,197 戸の軽減 ・ 浸水面積 1,015ha の軽減	31,822	29,682	2,141	13.9

武庫川水系河川整備計画で実施する全ての事業費を対象とした。

〔 下流部築堤区間 (河床掘削、堤防強化等)、下流部掘込区間 (河床掘削、護岸整備、パラペット) 等、中流部 (パラペット等の溢水対策)、上流部 (河床掘削等)、洪水調節施設 (新規遊水地、青野ダム の活用)、流域対策 (学校・公園等貯留施設)、支川の整備 (大堀川、天神川、天王寺川、荒神川、波豆川、山田川、大池川、相野川、真南条川、波賀野川) 〕

(2) 費用対効果に含まれない効果

道路の交通途絶による波及被害の軽減 文化施設 (観光地) の被害の軽減 多様な生物の生活環境の保全・再生・創出 親水空間の整備・景観への配慮

河川事業の効果

対象事業：住宅市街地基盤整備事業（二）武庫川水系武庫川（武田尾温泉地区）

（１）費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用 </div>

（２）費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	河川管理用通路の整備により孤立旅館の解消が可能
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	地域の治水安全度の向上は、観光資源の保全・観光地イメージの向上に寄与
	津波による浸水被害の軽減	×
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	瀬や淵の保全、環境に配慮した護岸整備(多自然型ブロックの採用)により貴重種を保全
	親水空間の整備・景観への配慮	多自然型ブロックによる護岸整備により、温泉地として相応しい景観を創出

印は当該事業効果の主な項目

（３）地域からの要望状況等

要望状況等	<p>本事業は、総合治水条例に基づき、学識経験者、地域住民、市町等で構成する協議会において、平成 24 年度に策定した「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画」に位置づけられ、武庫川流域の総合的な治水対策の一環として、地元と連携しながら、整備を進めている。</p> <p>なお、平成 16 年台風 23 号をはじめ、頻発する浸水被害を受け、武庫川下流治水事業促進協議会（西宮市ほか）や孤立する当該地区の旅館から、早期完成等を望む声が非常に強い。</p>
-------	---